

## 調査研究成果の概要・所見

熊本地震（平成28年4月16日）による被害状況と、その後の復旧・復興の取り組みが南海地震対策の教訓となれば、との思いから8月17日に南阿蘇村・西原村そして熊本城。18日には益城町の被害状況を視察しました。

17日（水）南阿蘇村では、視察の受け入れをして頂き、崩壊現場にも案内して下さいました。特に連日報道されていた阿蘇大橋崩壊の山崩れは、本市が昭和47年に体験した繁藤の山崩れの2倍以上の規模には驚きました。他にも小規模の山崩れは10数カ所あったのではないかと思います。役場庁舎では、地震による①地震の概要②被害状況③活動状況などの説明を受け質疑をさせて頂きました。説明の中で、他の自治体では有りますが被災された住民からの苦情や対応に悩み自殺された職員がいたとの話にはショックを受けた次第です。自助、共助、公助の在り方を新めて深く学ぶ必要性があるのではないかと痛感しました。南阿蘇村の視察を終えた後、西原村へ。

西原村では、9月に議会選挙が実施されるとの事で、この日が定例会初日。その為正式な受け入れは、して頂けませんでした。手前に復旧・復興における課題等の資料を送って頂いたので、議会事務局を尋ね御礼を兼ねて視察させて頂くことの挨拶に御伺いしました。その際、多大な被害が発生した地域へのアクセスや仮設住宅の場所を、お尋ねし視察を実施しました。

西原村の視察を終えた後、熊本城の被害状況を視察。

18日(木)は、午前中に益城町の中心地域をバスの中から視察。益城町は県内でも最も被害が大きく視察の件で事前に職員の方と話はしましたが、視察の受け入れを御願いすることは差し控えました。

今回の地震では、甚大な被害を受けた訳ですが南阿蘇村、西原村、益城町では、数多くの仮設住宅が建設されています。用地の確保は震災直後からの取組みであり、その御苦労が推測されます。また、今回の視察では、地震の恐怖を新ためて実感すると共に自主防災組織の充実を進めながら市民の地震に対する認識を高める事の重要性を痛感しました。



南阿蘇村

阿蘇大橋  
崩落現場



西原村  
仮設住宅  
被災家屋

